

ひろば大代

NO.384

大代まちづくり
センター

H23. 7.23

いつまでも

心に残る太鼓の音

昭和32年大代中学校卒業

福岡県 佐田加代子(旧姓山口)



大代を離れて以来、毎年七月と十月お祭りのころになると一度は帰りたいものと兼ねてから思っておりました。七十才になり、大阪の地でや々と願いが叶いました。当時、大家の町は神社から上市にかけてずらり、出店が並び、十円玉をにぎりしめて駆け出したものです。

夜になると好奇心とドキドキ感の入りに混じったこわいもの見たさで、肌寒くなつた公会堂で、神楽を見たり、いねむりしたり、夜食をつまんだりしていました。

このたび二十回関西高山会でお世話になつた先生や同級生や懐かしい方々

に会えて話がはずみました。

そしてメインステージは神楽や田植囃子です。笛・太鼓・鉦のリズムに乗って豪華な衣装内容豊富なドラマ、動と静のあでやかな舞。最高の総会芸術を堪能しました。大代では子供から大人まで一緒にこの伝統を脈々と受け継いでおられるご苦労がわかりました。

最後は盆踊りでした。お祭りの余韻がいつまでも残り、遠い昔に呼び戻され、美しい大代の里山を思い出しています。子供や孫達にも見せてやりたいと思いました。

大変お世話になりました。有難うございました。

同窓会に参加して

昭和38年大代中学校卒業

上飯谷 原田守男



還暦を過ぎてはや四年、六月十一日、大阪梅田で同窓会、十八人が集まった。大代から六人、東京から二人、あとは大阪、中学校を卒業してから同窓会らしき事したのは遙か彼方、会場に入り一人ひとりの顔を見てみると顔と名

前が一致する人、しない人、貴女は誰？私は誰々、中学校時代の顔も忘れた今、一目見ただけでは分からない。

卒業してから四十九年、これまでに紆余曲折があつたと思われるがそんな事は微塵にも感じさせない皆の笑顔、同級生だけにしか分からないあの時代に一気に逆戻りしたようだった。

私もおかげさまで今も元気に働いている。

今、日本は福島県の原子力発電事故で目に見えない放射能汚染で食物、水、魚介類、色々なものが危険な状態に陥っている。今、日本でもう二、三ヶ所福島級の原子力発電事故が起きたらおそらく生活が出来なくなるだろう。

先に逝つたY君、君の見舞いに行つた時、君の言つた言葉が今も心に残っている。

「君の住んでいる処に『水井手』^{みずいで}という所からきれいな水が湧き出ているだろう、今度生まれてくる時はきれいな水が湧き出ている処に住みたい」と言つたあの言葉が……。

せめて六十五歳くらいまで全員元気な笑顔で会いたかつた。

ふる里の象徴である大江高山の恩恵を受けているきれいな空気、水、これがないならば生きてはゆけないだろう、今一度考えてみる時ではないだろうか……。

ホームページ開設

のお知らせ

連合自治会長

佐藤 哲朗



大代高山会・まちづくりセンターと連携し「大田市協働によるまちづくり推進事業交付金」と「しまね自然と環境財団・ふれあい環境助成金」を活用しホームページ開設と「大江高山登山のしおり」を作成しました。

ホームページは八月一日からアクセス可能となります。大江高山の自然保護活動や登山情報・登山者の山頂からのメッセージ・写真展を掲載しました。また、大代町の情報も満載しています。まちづくりセンター広報誌「ひろば大代」の閲覧が可能です。

高山そば道場・高山の里加工部等の特産品加工グループのニュースも掲載しています。ホームページ開設により国内は勿論、海外在住の皆さんの閲覧

が可能となりました。

アドレスは www.oetakayama.com です。

皆さん、知り合いの大代町出身者に、「大江高山」で検索するとホームページにアクセス出来ると知らせて下さい。

「大江高山登山のしおり」は大江高山登山・高山そば道場に來られる町外の皆さんに、大田市自然環境保全条例に指定された、「イズモコバイモ」や「ギフトチョウ」の保護と登山マナーを訴えると共に、大代町の伝統芸能・特産品を掲載し大代町のPRパンフレットとして活用出来ます。

また、高山の里加工部で農産物の食品加工許可を得る為の交付金も決定しています。近々の内に改装工事が始まります。地元材料を活用した新たな特産品の誕生が期待されます。

昨年から大田市立病院問題、大代小学校統合と暗いニュースが続いていますが、まちづくりセンターを中心に、各種団体・グループと協力し、活力ある大代町を目指し、全力で取り組んでいます。

ホームページアドレスは www.oetakayama.com です。

田植えびさし

中学2年 竹島まどか

6月12日に大阪に行き、そこで田植えびやしをしました。

私は自分にあまり自信がなく、とても心配でした。しかし、今までみなさんと練習してきた事を出しきろうと思いい、本番をむかえました。

本番では、自信をもってみんなで合



わせようとがんばりました。時々声が小さくなる時がありましたが、練習の時よりも、大きな声で歌えたと思います。本番が終り、緊張がなくなり安心しました。

7月17日にある大代の伝統「十七夜」は自信をもって伝統をうけついでいきたいです。そして、大阪の時よりもより良い田植えばやしをしたいと思っています。これからも、地域のみなさんに支えてもらい、自分に自信をもって大代の伝統を次の人に、うけついでいきたいです。

田植えばやしを通じて

中学2年 木村先文

今回の田植えばやしを通して、学んだことは、田植えばやしの大切さです。なぜならば、やり終ってから大阪の人に「よかったよ」とか「ぼくもやっていたんだよ。なつかしいなあ」と言われました。人を感動させることができるので、すごいなあと思います。しかも、昔の人から伝えられてい

る、田植えばやしを僕がやっているんだなあと思ひ、うれしいのと同時に、見えないけど重たいバトンなんだなあと思ひました。

僕は、このバトンを次の世代の人に渡したいと思ひています。



関西高山会に参加

中学1年 泉 陸太

関西高山会には、神楽、田植えばやしが行きました。二日あつて、一日目は京都へ行き、有名な寺などへ行き、おみやげなどを買い、とても楽しい一日目となりました。



二日目が本番で、田植えばやし、次に神楽という順番でした。会場には、

何十人とおられ、その会場のまん中でやりました。緊張はしました。でも、今まで練習で教えてもらったことを全部だしきってできました。

とても楽しい、関西高山会の二日間でした。まだいたい気持ちもあったけど、今度十七夜があるので、それにむけて、しっかり練習し、とてもいい十七夜公演になるようがんばりたいです。



田植えばやしをついで

中学1年 井谷美紅

大阪に田植えばやしをしに行きました。今年、はじめて田植えばやしに参加して、大阪で田植えばやしをお客さんにひろうするのも、はじめてなので、とても緊張しました。

緊張して上手く歌えなかったところもあったけど、喜んでもらったので良かったです。

十七夜でも、田植えばやしをひろうするので、その時はいっしょうけんめいしたいと思います。

田植えばやし

中学2年 松井涼乃

大阪に行って、田植えばやしをしました。実際、会場に行ってみたら人が多くてびっくりしました。会場についてすぐ衣装に着替えました。それから本番までの間はずっと待っていました。すごく、緊張はしなかったけど少し緊張していました。そして本番では結構うまくいったと思います。また機会があったら行きたいなあと思います。



伝統ある田植えばやし

中学3年 井谷夏実

関西高山会で、田植えばやしをしてたくさん人がいて、すごく緊張しました。けれど、皆さんに喜んでもらえて、とてもうれしかったです。

田植えばやしは昔からある大代の伝統的なおどりなので、これからもこの伝統を受けついでいってほしいなあと思います。

地域交流事業から

そば打ち体験

今年も、6月23日(木)第三中学校の総合的な学習の体験学習(地域の人の交流)が行われました。

大代町では今回は「大代そば道場」内にて「そば打ち体験」をはぐるま会会員の方々に指導していただきました。以下感想文です。

3年 井谷夏実

先日は有難うございました。私が一番難しかったのはそばを四角の形にすることです。きれつが入ったり、穴があいたりして伸ばすのが大変でした。



けれどそば道場の人たちは素人なのに上手にそばを伸ばしておられてすごいなと思いました。あと手の温度でそばのやわらかさは変わるんだなと思いました。だから同じ水の量でもやわらかかったり、かたかったりと水の加減が難しいなと思いました。



自分たちで作ったそばは太い麺があったりしたけどとてもおいしかったです。また機会があったらそば打ちをしたいなと思いました。本当にありがとうございました。

1年 泉 陸太

地域交流学習でお世話になりました。僕は小学校のころからやっていたので

忘れて分からなくて失敗してしまったところもあるんですけど、とても楽しく出来ました。

最後に食べたそばは、おいしかったけど形や太さが全部バラバラ。とても楽しく食べられました。

また作れる機会があったらつぎこそは上手に作られるようになりたいです。交流会でさまざまなことが学べました。ありがとうございました。

賑やかだった十七夜祭り



暑さもピークの17日午後3時、たくさんの方々が見守る中、石清水八幡宮



にて中学生と一般が参加しての小笠原流田植囃子の奉納がありました。

また、大人のかつぐ神輿と小学生の神輿と幼稚園児の手作り神輿の3基が町内を「わっしょい、わっしょい」と掛け声も賑やかに練り歩きました。

いつもは静かな町内ですが、子供たちの掛け声で少し元気をもらったような一日でした。

わっしょい！
わっしょい！



